

応援される側から、する側に

同窓会長 佐伯健二

ご卒業おめでとうございます。新しい人生の門出を心よりお祝い申し上げます。とはいっても、この1、2年間、新型コロナウイルスによって勉強に、部活に大きな制約がかけられ、大変なご苦労をされたと推察しています。しかし、人間は様々な逆境を乗り越えてきた歴史があり、みなさんもそういった力があると信じています。良い経験をしたと笑い飛ばす時期は必ずやってきます。明るい未来を信じて、新しい出発をしていただきたいと、心から願っています。

さて、きょうはみなさんの同窓会入会式です。私たち鳥取中央育英同窓会は、お互いの親睦を深めること、母校の発展を支援すること、この2つの目標を規約に定めて活動をしています。

昨年、同窓会は「晩登会」という愛称を名乗るようにしました。正式名称が長すぎるという理由だけではありません。コロナ禍の中にあっても、皆さんが一生懸命頑張っておられる姿を見て、同窓会活動の原点に立ち返ろう！ということになりました。

「晩登会」の「晩登」の意味は、皆さんはよくご存じですね？ そうです、「晩登」はこの学校の創設者、豊田太蔵先生の雅号です。豊田先生の晩登精神を思い起こし、同窓会活動も母校の発展を支援する、原点に戻すことにしました。

具体的には、本年度から「晩登会奨学金支給制度」をスタートさせました。大学へ進学する卒業生を経済的に支援する取り組みです。とても良い取り組みだと他校関係者からも褒められ、新聞でも大きく取り上げられました。

育英という学校は、貧しくとも志のある生徒を支援し続けてきた誇らしい歴史を持っています。豊田先生は私財を投げ打って生徒に学費を貸与、あるいはは贈与してきました。東京に「晚登塾」を開設し、苦学の卒業生を助けて来たこともよく知られています。

私も高校を卒業し、進学準備していたころ、ある先生から思わぬ支援を受けました。「生活するところは決まったか？俺が下宿していたところを紹介するから、お前も世話になれ。そこで暮らせば親御さんも安心だ」と。私は県外で暮らしたことも行ったこともあまりなく、とても不安な気持ちでおりましたので、この先生の提案はありがたかったです。担任でもない先生でしたが、とても親身に接していただき、感激しました。その感激は今も心に残っています。私たちの学校は、生徒を大事にする学校です。

皆さんは卒業すると、ただちに同窓会の一員になります。なぜかと言うと、卒業と同時に、同窓会費を支払うからです。会費を払えば、生涯会員です。

はじめに触れたように、同窓会には母校を応援する大きな役割があります。つまり、皆さんは卒業と同時に、応援される側から応援する側に回るのです。先生や友達からもらった良い思い出、感謝の心を、今度は返す番です。

皆さん、これからは共に母校を応援していきましょう。同窓会は県内、県外に支部があります。同窓会の集まりに参加し、互いの親睦を深め、母校の発展を応援していきましょう。同窓会の仲間入りを心から歓迎いたします。

以上、同窓会入会歓迎の言葉といたします。（了）